

感染症

相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第10週)

(令和8年3月2日～令和8年3月8日)

令和8年3月12日

定点報告(上段:定点当たり/下段:報告数)、全数報告(報告数)

区分	疾病名	2026年					2025年 合計	2024年 合計
		7週	8週	9週	10週	合計		
定点報告	インフルエンザ	30.67	18.00	18.67	10.33	—	—	—
		92	54	56	31	538	2,558	1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	0.33	2.33	1.67	0.67	—	—	—
		1	7	5	2	87	1,139	3,622
	RSウイルス感染症	1.00	1.00	2.00	1.00	—	—	—
		2	2	4	2	14	156	309
	咽頭結膜熱	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	2	78	337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	1.00	2.00	2.00	—	—	—
		2	2	4	4	31	243	657
	感染性胃腸炎	8.50	4.00	4.00	2.50	—	—	—
		17	8	8	5	79	430	610
	水痘	—	0.50	0.50	—	—	—	—
		0	1	1	0	3	10	6
	手足口病	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	15	952
	伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	141	0
	突発性発しん	0.50	1.50	0.50	—	—	—	—
		1	3	1	0	7	59	182
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	4	19	
流行性耳下腺炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	1	10	13	
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	2	9	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	2	16	1	
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	—	2.00	1.00	—	—	—	—	
	0	2	1	0	6	42	16	
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザ入院	2.00	—	—	—	—	—	—	
	2	0	0	0	5	39	19	
新型コロナウイルス感染症(入院)	2.00	—	—	1.00	—	—	—	
	2	0	0	1	17	56	120	
急性呼吸器感染症(ARI)	98.00	73.67	75.67	66.33	—	—	—	
	294	221	227	199	2,342	8849	—	
全数報告	レジオネラ症	0	0	0	1	1	5	3
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	0	0	0	2	1	0
	梅毒	0	1	0	0	1	3	6
	百日咳	0	1	1	0	5	141	0

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	インフルエンザ の流行が見られます。
全数把握疾患	レジオネラ症(100代1名) の報告がありました。
インフルエンザ	相双地域及び県(県内総数)は前週と比較して減少しました。 本県における第10週の定点当たり報告数は14.29と、4週連続で前週と比べ減少しました。第6週(53.23)をピークに減少傾向にありますが、10代以下の若者を中心に報告が多く、警戒は継続中です。B型が約9割を占めています。インフルエンザウイルスに感染すると、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が現れ、喉の痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。子どもは、まれに急性脳症を発症し、高齢者や免疫が低下している方は肺炎を伴うなど重症になることがあります。B型の流行が見られることから、今シーズンで既に感染した方も再感染する恐れがあります。今後の急激な感染拡大を防ぐため、引き続き基本的な感染対策の徹底をお願いします。
新型コロナウイルス感染症	相双地域及びは前週と比較して減少しましたが、県(県内総数)は前週と比較して増加しました。 5週ぶりに前週と比べ増加しました。直近2年間の同時期より低い水準にあるものの、他疾患と同様、基本的な感染対策が重要です。
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	本県で1例報告がありました。 高齢者の感染例がほとんどを占めています。初期症状には、発熱、悪寒、四肢の痛み、傷の発赤、腫れが見られますが、傷口からの感染を含め、様々な要因が感染経路となるため、異常を感じた際の早期の受診、初期治療が重要です。
侵襲性肺炎球菌感染症	前週に引き続き本県で2例報告がありました。 侵襲性肺炎球菌感染症は、肺炎球菌が髄液や血液に侵入することで生じる感染症です。小児及び高齢者を中心に飛沫感染により感染し、髄膜炎等を伴う肺炎や、敗血症を生じます。予防にはワクチン接種が有効ですので、特に定期接種対象の方は早期のワクチン接種を推奨します。
麻しん	県内の発生は確認されていませんが、国内の感染者数が増加しています。 麻しん(はしか)は麻しんウイルスによる感染症で、感染すると咳、鼻水、高熱、発しんが生じます。空気感染が主な感染経路であり、極めて感染力が強く、免疫を持たない人が感染者に接するとほぼ全員が感染します。海外からの輸入事例がほとんどであることから、特に海外へ出張・旅行に行く方は、ワクチン接種(2回)の有無を確認し、感染に十分注意しましょう。

3月に入り、会食や人の移動が増える時期を迎えます。引き続き急激な感染拡大を防ぐため、普段と体調が異なる場合には出勤や登校を控えるなど体調管理に留意することや、咳エチケットや手洗いの励行、場面に応じたマスクの着用など、基本的な感染対策をお願いします。

(参考・引用)福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2026年第10号